

## “子どもたちへの期待”

園長 高杉 洋史



お店屋さんごっこが発展  
しました。何かわかります  
か？

答えは自動販売機。

大学は9月入学の方向に変化しています。世界中の大学がつながり、切磋琢磨の時代に入りました。さて、幼稚園はどうかと世界を見回すと、あれほど幼児教育関係者の中で話題になっていた北欧の幼児教育も、イタリアのレッジョエミリア市の教育も一段落した感があり、結局自分の国の社会環境にふさわしい幼児教育が求められています。ということ、実際に重きを置いた幼児教育の流れはますます必要とされます。なにせ五パーセント程度の大学生が鶏の足を四本描く今日この頃ですから。びっくりするようなことは世界中でおきており、アメリカ合衆国の多くの州立高校で進化論が教えられていないとか。その影響で、進化に関する常識は両国で多少異なる可能性が

あります。サイエンスの世界では常識が変化することは結構頻繁に起きることではあります。脳細胞が大人になってからも脳の一部では分裂している知見が一般化したのもこのごろですし、まだ動物で確認されている段階で、ヒトでもそうなのかは今後の研究に待ちますが、胎児の細胞が母親の脳に到達し、増殖しているとか。母親が子どもをかわいがるのは本当に一心同体なのですね。ということで、教育を受けることも自分で学習することも一生涯必要なことですし、特に学校のシステムは国民の常識を左右するものだけに、私たち大人がしっかりと見守る必要があります。

三学期は幼稚園教諭にとって待ちに待った季節です。クラスがまとまり、子どもたちの個性もしっかり把握できているので、レベルの高い教育に挑戦できるからです。子どもたちと教諭も心をひとつにして進級・卒園に向けて日々をすごします。とくに自分の気持ちを言葉や音楽や身体表現や絵画で表すこと、お互いの考えや気持ちや身体表現を、分かり合うコミュニケーション能力の一段のスキルアップに取り組みます。これらのことはすべて基本的な生活習慣が確立されていることが基礎となります。早寝早起き朝ごはん、そしてやさしい家族のまなざしで子どもたちはすくすく育ちます。つぎの学年に向けて大きな飛躍を期待しています。

